

第2回リンパ浮腫フォーラム

2009年12月5日

在宅緩和ケアの立場から
リンパ浮腫ケアについて考えること

細田行政

今日の内容

お伝えしたいこと

- どこで、誰と、どんな風に過ごしていきたいのか
 - ✓ 身近にいる専門職とコミュニケーションをし、
 - ✓ 近所の方々となじみの関係を築き、
 - ✓ 知りたい情報を今から整理していくこと
- はじめに
- 爽秋会の活動とリンパ浮腫ケア
- 在宅現場からの提言

看護師による予防・治療戦略がリンパ浮腫の発現率低下 と患者の生活の質の改善をもたらす

文献によると、リンパ浮腫に取り組むための
有効な戦略とは……リスク下にある患者を
早期に同定することである。

緩和ケアの推進

- がん患者とその家族が可能な限り質の高い療養生活を送れるようにするため、緩和ケアが、治療の初期段階から行われるとともに、診断、治療、在宅医療などさまざまな場面において切れ目なく実施されることが必要
- がん患者の状況に応じ、身体的な苦痛だけでなく、精神心理的な苦痛に対する心のケア等を含めた全人的な緩和ケアの提供体制を整備することが必要

すべてのがん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修

緩和ケアについての専門的医療従事者の育成
(国立がんセンター等における研修)

がん診療連携拠点病院の整備指針の改定

緩和ケアを推進するための
包括的プログラムによる地域介入研究

緩和ケアについての一般国民への普及啓発

すべてのがん診療に携わる医師が緩和ケアについての基本的な知識を習得
専門的な緩和ケアを提供する医師や緩和ケアチームの数を増加
がん患者の意向を踏まえ、住み慣れた家庭や地域での療養を選択できる患者数を増加

機能分担と連携が必要な理由

- 外来治療のみ、入院診療のみ、両方行っているなど各施設の対応が様々
- セラピストが対応できる患者数
- リンパ浮腫の病期（重症度）の変化
- 全身状態の変化に伴う療養場所の変化



施設間で患者への説明が異ならないよう

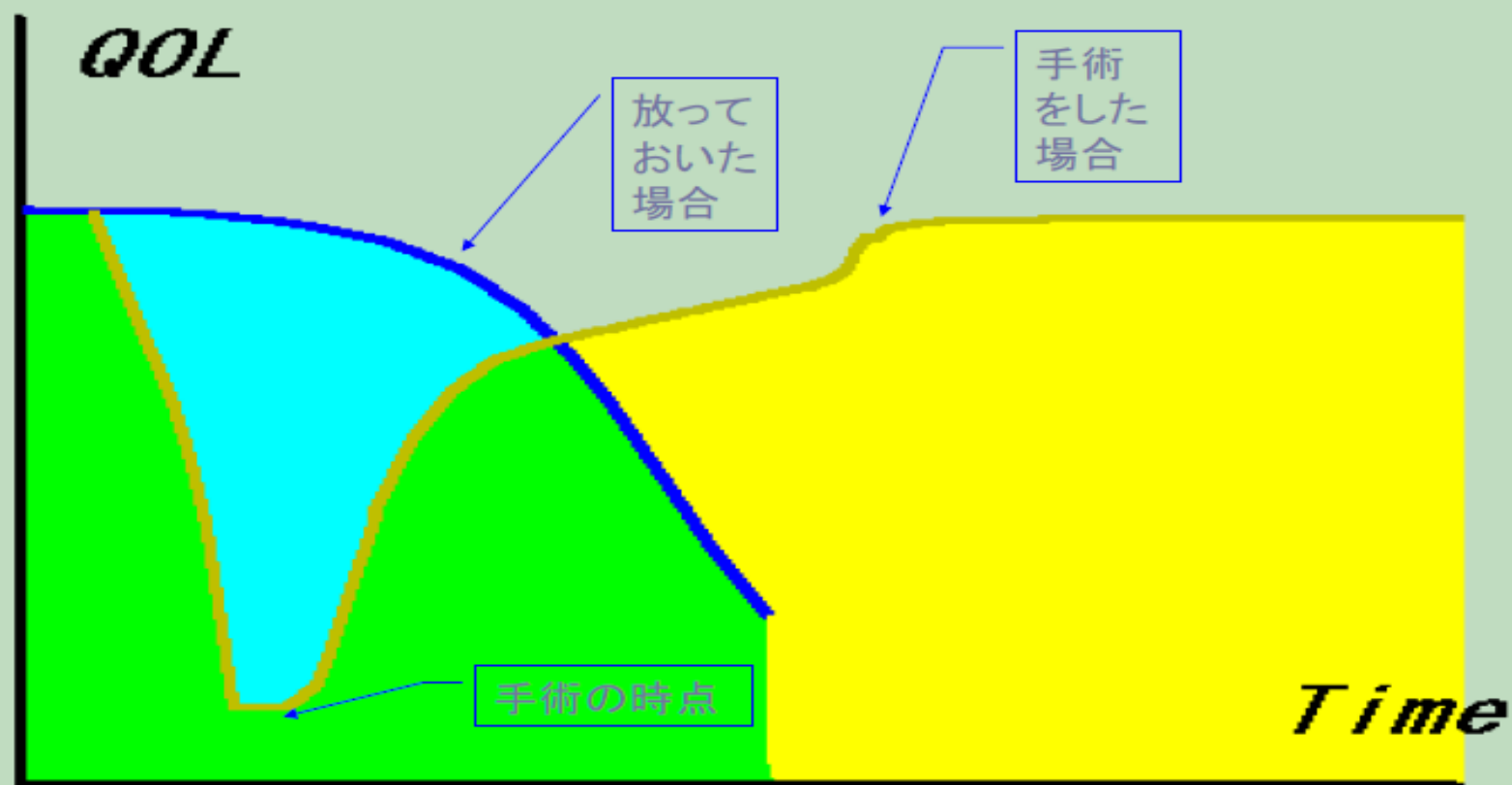
- 1, 医師の方針とセラピストの方針
- 2, 施術方法の統一が必要



施設間の密な連携と普及・啓蒙活動が急務

医療の目的

医療の目的 = QOL × 余命をできるだけ大きく！



爽秋会のリンパ浮腫ケア ～事例報告と課題～

爽秋会の活動理念

WHO緩和ケアの定義
患者ニーズから考える
死から逆算して考える

爽秋会の介入時期

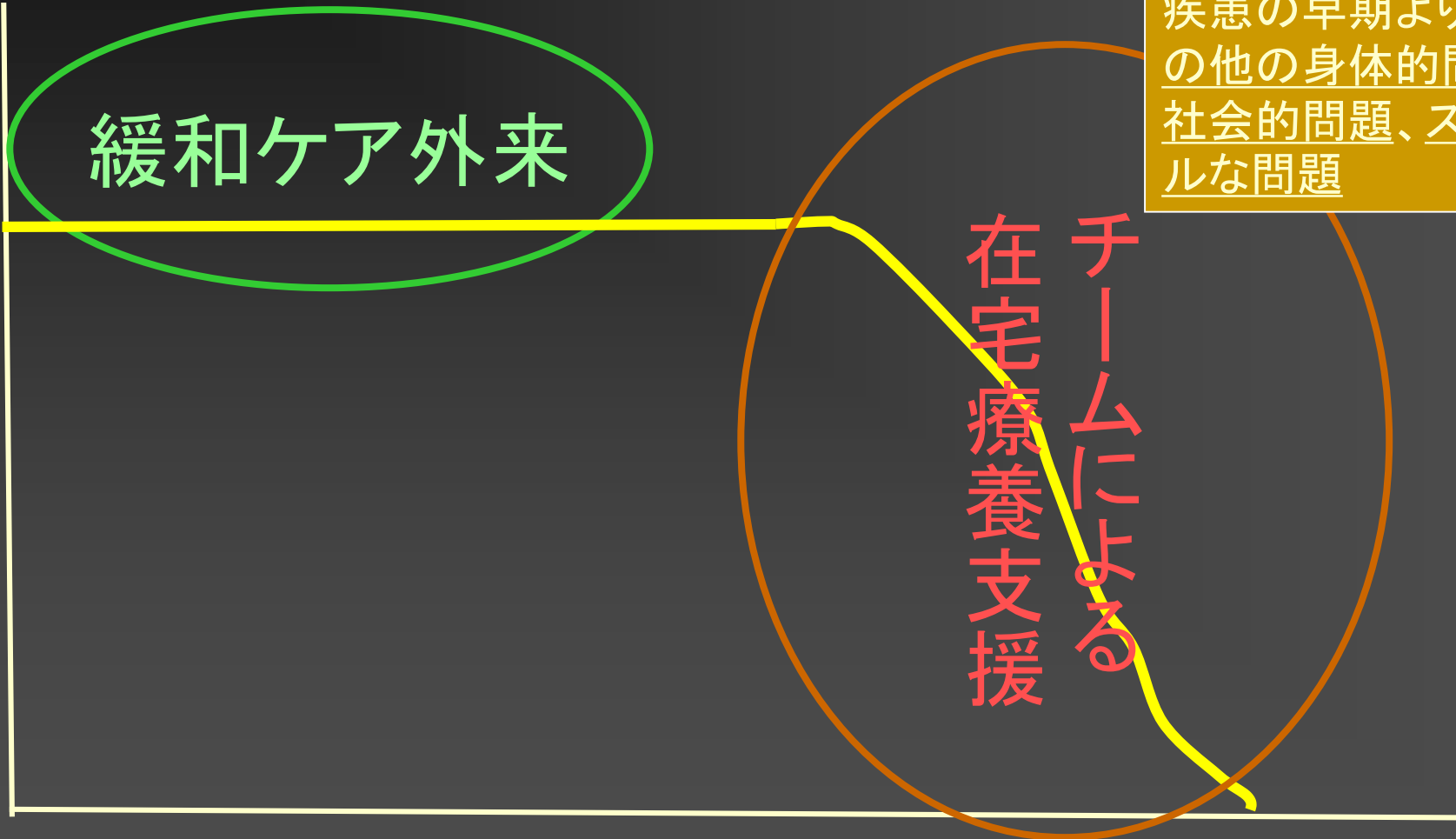
QOL

緩和ケア外来

在宅療養支援
チームによる

患者とその家族に対して、
疾患の早期より痛みやそ
の他の身体的問題、心理
社会的問題、スピリチュア
ルな問題

Time



緩和ケアでのリンパ浮腫への対処法

1, 治療法選択の指針

→ 患者の生活状況を考慮する

- 浮腫の原因と現在の状態を見極める
- 患者の諸々の状況を考える
- 患者の希望を考慮する
- 治療後の変化を見極める

2, 目標設定

- 浮腫の軽減
- 現状維持
- 浮腫に伴う二次的な苦痛の軽減

事例①

- K.K 65歳 卵巣癌術後再発 浮腫Ⅱ期 / PS2
- 医師初診:4.14
- マッサージ初回訪問:4.16
- 最終訪問:5.9(全10回訪問)
- 死亡:5.11
- 筒状包帯使用したが、ケアの中心は訪問時のマッサージ
- ご本人は活動性が保たれている間は自分で身の回りのことをしたい

事例②

- I.R 73歳 左尿管腫瘍 左水腎症 浮腫Ⅱ期/PS2
- 医師初診:4.1
- マッサージ初回訪問:5.20
- 最終訪問:6.5(全7回訪問)
- 死亡:6.26
- 平編みのストッキング購入してもらった。着用が大変。状態悪化により2日ほどしか着用できなかった。
- 浮腫の急激な増悪
- 全身状態の悪化により訪問中止

事例考察

- 初回訪問でも積極的なケアは行えない
 - 循環動態の悪化
 - 血漿成分の変化
 - 腫瘍増大による静脈閉塞
 - 多発リンパ節転移
 - 筋力低下による運動機能低下
 - 浮腫範囲の急激な拡大
 - 低栄養
 - 悪液質
- 限られた対処法
 - 平編みストッキングは着用が困難
 - ご本人・ご家族ともにマッサージを行うことが難しい

リンパ浮腫ケアに費やせる時間

「在宅で行う通常業務の中でリンパ浮腫のケアを行うとしたら、どのくらいの時間を確保できるか」

～基本的な訪問計画～
医師1回／週
看護師4回／週

看護師	
10分から30分	6
10分以内	3
30分から60分	1
難しい	1
医師	
難しい	2
10分から30分	1
作業療法士	
10分から30分	2

在宅現場からの提言

岩手県がん対策推進計画

<はじめに> 1 策定の趣旨

- このため、国のがん対策推進基本計画を基本としながら、本県のがん医療等の現状を踏まえ、県民一人ひとりが正しい知識と情報を持ち、安心・納得できるがん医療を受けられるようにするなど、「がんを知り、がんと向き合い、がんに負けることのない社会」を実現するため、本県のがん対策を総合的かつ計画的に推進する「岩手県がん対策推進計画」を策定します。

リンパ浮腫への対応策



逆算しながら考える

